

虹の架橋



今月の題字
星野尚香さん

(桐生市広沢町)

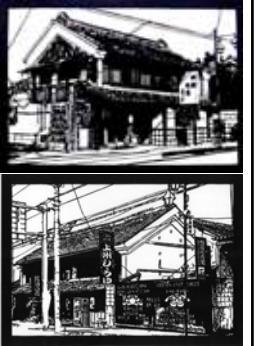
星野管工(株)社長であり、香り屋尚香堂の店主でもある「ひさか」さんは人を喜ばせ、感動させる名人。三方良しの会の散策マップも尚香さんの感性の賜物です。

ながめ公園で関東菊花大会開幕
29日は町内各所でイベント開催

大間々町が最も賑わう秋の到来です。今年も恒例の関東菊花大会が10月23日から11月23日まで、ながめ公園で開催されます。また、ながめ余興場では10月23日から11月13日まで毎週土・日・祝日の12時半からと14時から2回の、若手落語家による「菊花寄席」を開催。入園料300円で本格派の落語が楽しめます。



長い歴史を誇っている「ながめの菊人形」の今年のお出し物は、NHK大河ドラマ「江」から、本能寺の変や川中島の合戦などの名場面を再現。そして、江姫や浦島太郎、福助など総勢16体の菊人形が着飾って来場者をお迎えしています。



老舗の大イベント

10月29日(土)は、創業262年の奥村酒造と創業224年の河内屋(岡直三郎商店)の近江商人老舗蔵元イベントが開催されます。当日は「売り手よし、買い手よし、世間よし」の『三方よし』の心でお客様に楽しんでいただけるよう、工場見学や中庭での食のコーナーも用意。その他、大間々町商工会、観光物産協会、三方良しの会の会員店舗などが力を合わせて様々なイベントで町内を盛り上げます。

世界一小さな
定利屋
トイレ美術館

今月の写真《194》

境野新太郎さん『こもれび』



先日、さくらもーるで、第10回「仲間たちの写真展」が開催され、境野新太郎さんの「こもれび」という作品の前で足が止まりました。太田金山・金龍寺の紅葉の中で穏やかに佇むお地蔵様を撮った写真でした。お地蔵様の目に温かな木洩れ日があたり、目を細めているお顔をみていると、お地蔵様の慈悲の心が伝わってくるように感じました。昔からの馴染みの境野さんに頼んで、「こもれび」を足利屋でも飾らせてもらうことになりました。観ているうちに思わず手を合わせたくなるような素敵な写真です。

靖ちゃん日記

9月25日(日)
今日は朝10時から午後4時まで、大間々の観光ガイドを手伝った。午前中は二軒からハイキング外あり、800人もの老若男女が本所通りを歩いた。午後は「はとバスツアー」が来た。大間々より街歩きツアーは大好評で、30日まで延長した募集も6日連続で満席だった。今日はバスツアー客の中に、横浜から来たMさん母娘がいた。30数年前に足利屋の裏の一軒家に数年住んでいた人だった。「あの頃はともあそ世話になりました」とお母さんが言い、娘さん「まじかえんは、大間々外私の故郷です」と、幼い頃の家産の思い出を話してくれた。同心いかけない再会が嬉しかった。岡商店の中庭のレンガ煙突の前でMさん母娘と写真を撮った。パッツという音がなせか心に響いた。人から「ジョウター」と呼ばれると、「はいはい、背中でも腰でも何でも押しますよ」と答えている。「記念写真と撮らせて、お肉」といって、その「お肉」は「誰かに買ってもらうたい」なんちって！



小耳にはさんだ いい話
《194》

ココロの授業

先日、「私が一番受けたいいココロの授業」(ごま書房)という本を読み返しました。その中で、フランス料理の第一人者・三國清三さんの若い頃のお話に感動しました。三國さんは昭和29年生れ。15歳で札幌グランドホテルの厨房に入り、わずか数年で花形シェフになります。その後、札幌のホテルの料理長の紹介で帝国ホテルへ移り、料理の頂点を目指します。当時の帝国ホテルの総料理

理長は村上信夫さんでした。三國さんは最初の日に、村上さんから「鍋でも洗ってもらおうか」と言われました。三國さんは「札幌の人気シェフ」のプライドを捨て、徹夜で鍋の取っ手のネジまではずして、きれいに磨き上げたそうです。翌朝、村上さんは三國さんに「キレイに洗えていたね」と言いました。三國さんが「今日は何をさせてもらいましよう?」と聞いたところ、村上さんは「そうだなあ、鍋でも洗ってもらおうか」と言ったそうです。それ

から2年間、三國さんの仕事は、来る日も来る日も鍋をピカピカに磨くことでした。2年後、三國さんは「このままここにいる料理の腕は上がらない」と思い、ついに辞める決心をしました。そんな時、三國さんは村上さんに呼ばれました。そして、「来月から、スイスの日本大使館公邸の料理長をやってもらおう」と告げられたそうです。当時、帝国ホテルには600人の料理人がいたそうです。「鍋洗いしかできない三國よりも、もっと優秀な料理人がたくさんいるじゃないですか!」という周囲の声に對して村上さんは「鍋の洗い方や

塩のふり方一つを見れば、その人の人格やセンスがわかる。技術は人格の上に成り立つものだ。三國なら間違いのない」と言いきったそうです。以前、イエローハットの創業者・鍵山秀三郎さんが大間々へ来て下さった時に「雑巾の絞り方一つでその人の全人格がわかります」と言われたことを思い出しました。「私が一番受けたいいココロの授業」の著者・比田井和孝さんと中村文昭さんの講演会が12月24日に高崎で開催されます。詳しくは足利屋へ。



ココロの棲家残して草を引く

ここ数日は庭の草むしりが朝の日課になっています。朝の陰の草を引き抜くと、ココロギやミミズが慌てて逃げ惑う姿に出会います。坂村真民先生の「二度とない人生だから一匹のこおろぎでもふみころさないようにこころしてゆこう。どんなにか喜ぶことだろう」という詩や、「ミミズだって、オケラだって、アメンボだって、みんなみんな生きてるんだ友達なんだ」という歌を思い出します。小さくても大切な命、と優しい心になった次の瞬間、藪っ蚊を叩きころしていました。



虹の架橋

検索で、インターネットからでもご覧いただけます。

第195号は11月1日(火)発行予定です

靖ちゃんの似顔絵提供: ひさかさん

